

McDonald's CSR Report 2017





企業概要

日本マクドナルド株式会社

所在地 〒163-1339 東京都新宿区西新宿6-5-1 新宿アイランドタワー
電話 03 (6911) 5000 (代表)
設立 1971年（昭和46年）5月1日
資本金 1億円
事業内容 ハンバーガー・レストラン・チェーンの経営並びにそれに付帯する一切の事業
店舗数 2,898店
売上高 4,901億円（直営店・フランチャイズ店合計売上）
従業員数 正社員／2,255名（役員・契約社員などを除く）
パートタイマー／約14万名（直営店・フランチャイズ店合計）

（2017年12月31日現在）

企業情報

コーポレートガバナンス、コンプライアンス管理等は
日本マクドナルドホールディングス株式会社ホームページをご確認ください。
<http://www.mcd-holdings.co.jp/>

編集方針

本レポートでは、マクドナルドが取り組んでいるCSR（企業の社会的責任）を5つのカテゴリーに分けてその活動内容を報告しています。マクドナルドのCSRに対する考え方や姿勢、実践している取り組みを開示することにより、多くのステークホルダーの皆さまと情報を共有し、持続可能な社会につながればと考えております。
内容はCSRに特化したものとし、企業情報に当たるものは日本マクドナルドホールディングスのホームページURLを紹介しております。

報告の対象範囲ほか

報告対象組織 日本マクドナルド株式会社（一部日本マクドナルドホールディングス株式会社を含む）
報告対象期間 2017年1月1日～2017年12月31日
報告対象分野 社会的責任領域全般（経営・社会・環境）
次回発行予定 2019年3月
作成部署及び連絡先 コーポレートリレーション本部
〒163-1339 東京都新宿区西新宿6-5-1 新宿アイランドタワー
電話03 (6911) 5000 (代表)

01 企業概要・企業情報・
編集方針・目次

02 Top Message

03 QSC&V CSR

04 持続可能な社会を目指して

食の安全・安心

雇用

環境実績

社会貢献

08 Sourcing

サプライヤーとの関係

09 Food

食の安全・管理

店舗での品質管理

情報開示

12 People

ピープルビジネス

14 Community

社会貢献活動

16 Planet

廃棄物対策・環境保全

エネルギー対策・店舗環境

18 第三者意見

Top Message

私たちはお客様のことを第一に考えて行動するというポリシーを前提に、事業活動を進めるに伴い発生する企業の社会的責任を果たす努力をしています。それはまず食を提供する企業として、原材料の調達から店舗でお客様に商品を提供するまでの品質・衛生に対する責任。全国約2900店舗で働くクルー及び従業員、そしてそれを支えるオフィス従業員に対する「人」への責任。「地球のことを考えて行動する」という理念に基づく環境に対する責任。これらを誠実に実行し、発展させていくことが私たちに求められていることです。そして、マクドナルドの持つ強みと全国に及ぶ規模を活かして社会貢献することも私たちが果たすべき企業責任です。私たちが力を入れている社会貢献活動は、将来を担う子供たちへの活動を中心であり、ドナルド・マクドナルド・ハウスの支援、スポーツ支援、食育支援、と幅広い活動を行っています。

また、マクドナルドは今後のグローバルな展開として、Scale for Good(スケールフォーグッド)と称したグローバルに統合されたCSRの枠組みを構築し、その実行により、社会的、環境的課題の解決を図り、持続可能な世界の達成に寄与することを宣言しています。

現在、世界は人口増加、都市化の拡大、気候変動が進む状況にあり、水や食料などの基本的資源は限界に達しようとしています。マクドナルドは世界最大のレストラン企業のひとつとして、今日の世界で最もさしまった社会的、環境的課題に取り組む責任があると考えています。Scale for Good（スケールフォーグッド）はマクドナルドのフードビジネスが社会並びに環境に与える影響と、お客様や従業員をはじめとするステークホルダーがマクドナルドに対して望む社会的、環境的課題とを勘案して作成されています。この取り組みはマクドナルド単独では実現できるものではありません。お客様、従業員、フランチャイジー、サプライヤー、行政、及びコミュニティーの皆さまのご協力を仰ぎながら実行するものであり、それが持続可能な社会の実現につながるものと確信しています。

私たちは、今をして将来を見据えた企業の社会的責任を理解し、実行することが多くのステークホルダー並びに社会環境、地球環境に貢献することと考えています。

日本マクドナルド株式会社
代表取締役社長 兼 最高経営責任者 (CEO)
サラ・エル・カサノバ



QSC&V

Quality 品質

Service サービス

Cleanliness 清潔さ

Value 価値

マクドナルドは、クイックサービスレストランとして、食の安全と安心を第一に考え、お客様に最高の店舗体験を提供するため、飽くなき挑戦と絶え間ない改善によって「Q・S・C」を向上させ、マクドナルドならではの価値「V」を研鑽し続けていくことを使命としています。これが創業者レイ・A・クロックが提唱したマクドナルドの不变の理念「QSC&V」であり、常にその向上に努めています。

「QSC&V」の向上を実践するのに伴い、企業としての社会的責任(CSR)を果たさなければなりません。私たちは社会的責任を5つのカテゴリーに分け、それぞれにおいてステークホルダーや社会の声を聞き、誠実で最適な行動を取ることに努めています。



Sourcing
原材料調達



Food
商品・品質管理



People
従業員



Community
社会貢献



Planet
環境

CSR

Corporate Social Responsibility
企業の社会的責任

この5つのカテゴリーには、食の安全確保の基本となる原材料生産者との関係、調達のプロセスであるSourcing、「食」の安全と安心を達成するための品質管理を示すFood、人の成長が企業の成長をつくるというポリシーに基づくPeople、「私たちをいつも支えて下さっている地域の皆さまへお返しをする義務がある」という社会貢献の原点に基づくCommunity、そして環境配慮は事業活動を行う企業の社会的責任と考えるPlanetがあります。

持続可能な社会を目指して

食の安全・安心



情報の開示 『見える、マクドナルド品質』

100%の
こだわり



http://www.mcdonalds.co.jp/safety/good_quality/

食材の
道のり



<http://www.mcdonalds.co.jp/safety/factory/>

アレルギー・栄養・
原産国情報



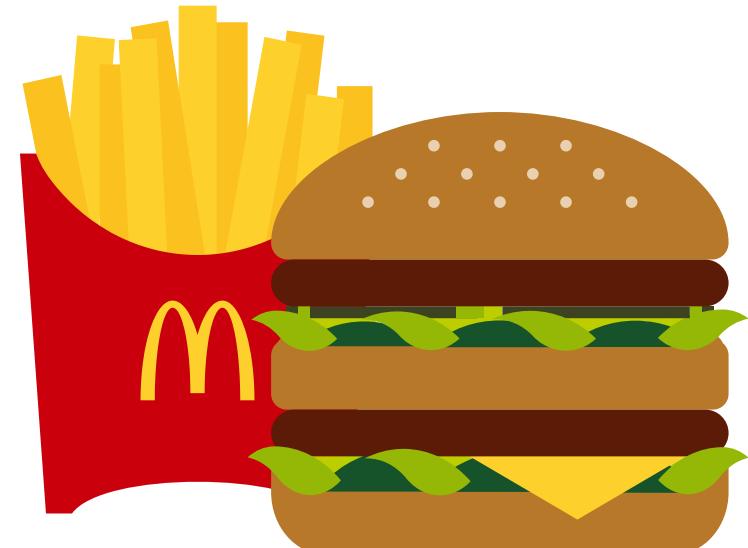
http://www.mcdonalds.co.jp/safety/allergy_Nutrition/

栄養バランス
チェック

※2017年12月リニューアル



http://www.mcdonalds.co.jp/quality/basic_information/check.php



食材に関する取り組み

品質改善の
取り組み



<http://www.mcdonalds.co.jp/safety/taskforce/>

安全・安心への
取り組み



<http://www.mcdonalds.co.jp/safety/food-safety/>

トランス脂肪酸への
対応



http://www.mcdonalds.co.jp/safety/trans_fat/



品質管理体制

製品
原材料数



サプライヤー
工場数



年間
工場監査回数



食品安全に関わる
重大事案



食の安全サミット

2017年8月8日、第3回「食の安全サミット」を東京で開催。農場から店舗まで、マクドナルドの食を支える関係企業が集合。「転換から成長へ」をテーマに、よりおいしいお食事、より気持ちよく安心して召し上がっていただける店舗体験の提供を目標に3つのコミットメントを策定。

<http://www.mcd-holdings.co.jp/news/2017/csr/csr0831b.html>

持続可能な社会を目指して

雇用

2017

全従業員
(直営店のみ) **2,255**名

男性 **1,583**名



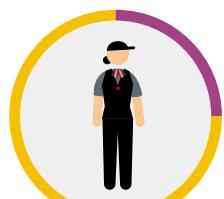
女性 **672**名



70.1%

29.9%

女性店長比率
24.5%

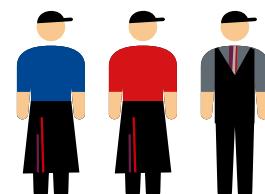


女性管理職比率
(部長以上)
15.2%

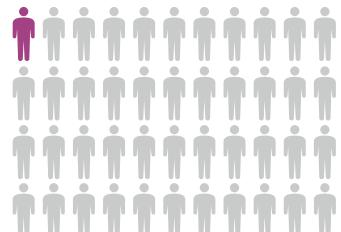
女性役員
8.0%



2017
クルー人数
約140,000名



2017
障害者雇用比率
2.23%



2017
育児短時間勤務制度
利用者数



108名

出産・介護休暇制度
利用者数



49名

2017
全社員月間残業時間



(2017年12月31日現在)

持続可能な社会を目指して

環境実績

2017

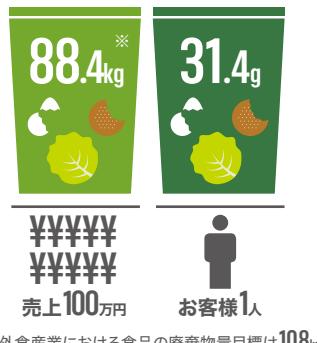
食品リサイクル率



全店の廃棄物量



食品の廃棄物量



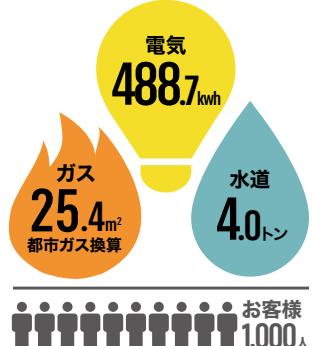
※外食産業における食品の廃棄物量目標は108kg

2017

エネルギー使用量

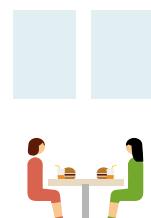
211,624

キロリットル（原油換算）

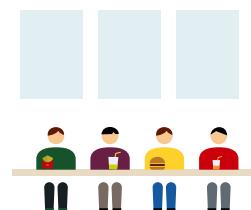


2017

店舗生活環境向上
店舗禁煙率



100
(2014年8月より)
%



2017

FSC®森林認証取得
紙製容器包装率



※2020年までに100%取得予定

TOPICS



マクドナルドのオーダーメイド式キッチンシステム「メイド・フォー・ユー」による食品ロス削減が評価され
『食品産業もったいない大賞 農林水産省食料産業局長賞』を受賞

<http://www.mcd-holdings.co.jp/news/2017/release-170309a.html>

社会貢献

持続可能な社会を目指して



チャリティ

<http://www.mcdonalds.co.jp/company/community/donald/>

2017

ドナルド・マクドナルド・ハウス支援 店頭募金額



7,002
万円

利用家族数



7,453
家族



スポーツ支援

<http://www.mcdonalds.co.jp/company/community/sport/>

2017

高円宮賜杯 全日本学童軟式野球大会 参加チーム



約 12,000
チーム

少年サッカー 全日本少年サッカー大会 参加チーム



約 9,000
チーム



地域貢献

http://www.mcdonalds.co.jp/company/community/community_relations/

2017

防犯笛 配布数



873,148
個

ハロードナルド 開催回数



744
回



教育支援

http://www.mcdonalds.co.jp/company/community/ne_mc_support/

2007-2017

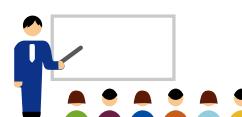
食育支援

「食育の時間」教材を使った
授業実施回数



6,158
回

受講児童・ 生徒数



175,248
名

TOPICS



「日本マクドナルドの食育支援活動」が『平成28年度 優れた「早寝早起き朝ごはん」運動の推進にかかる文部科学大臣表彰』を受彰。

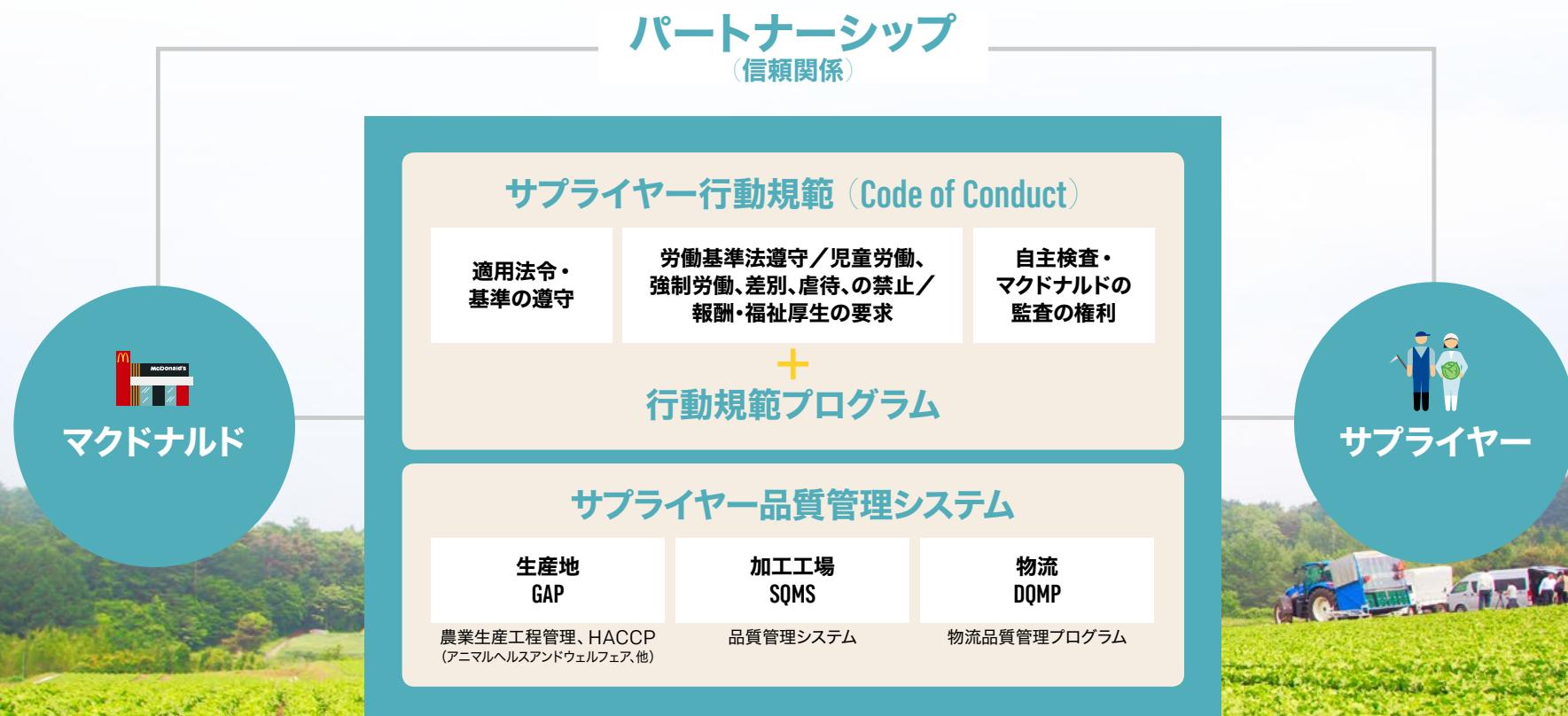
<http://www.mcd-holdings.co.jp/news/2017/csr/csr0323b.html>

Sourcing

サプライヤーとの関係

「私たちは、食の安全をすべてに優先させます。」というポリシーのもと、世界最高の食品管理システムを目指して努力を続けています。この理念は原材料の生産から加工、物流にいたるサプライヤーにも同様に求められます。そのためにはサプライヤーとのパートナーシップが重要な意味を持ちます。パートナーシップの核となるのが「サプライヤー行動規範」、第三者機関による監査制度を導入した「行動規範プログラム」、そして高いレベルの品質管理・衛生管理を実施することを目的としたサプライヤーに求める「品質管理システム」です。

<http://www.mcdonalds.co.jp/safety/food-safety/>



1



製品の品質・安全・衛生に関するマクドナルド基準

Food

国産を含めた世界規模の安定した原材料調達



社会的責任と持続可能な企業行動及び行動規範

農場から店舗まで連続した品質・衛生管理 及びトレーサビリティ

4



生産地から加工工場、物流、店舗までの連続した品質管理、衛生管理を実現するために、それぞれの工程毎に基準を設定すると共に、内部監査による自己点検、第三者機関による外部監査を設けています。また、全工程を対象に生産履歴を追跡するトレーサビリティを構築しています。

基準
監査

GAP 農業生産
工程管理

HACCP 危害分析重点
管理点方式

SQMS 品質管理
システム

マクドナルド監査／第三者専門機関監査

DQMP 物流品質管理
プログラム

マクドナルド監査／第三者専門機関監査

HACCP 危害分析重点
管理点方式

GMP 製造品質
管理規範

SSOP 衛生標準
管理基準

外部衛生監査



店舗での品質管理



「私たちは、食の安全をすべてに優先させます。」というポリシーを達成するため、店舗では独自の衛生管理システムの実行と共に、外部衛生監査を行っています。店舗の衛生管理システムはHACCP、GMP、SSOP、によって構成されています。

その実行を着実なものにするため、「フードセーフティチェックリスト」、「ブランドメンテナンスカレンダー(PMC)」などを使用し、常に最適な状態を維持しています。これにより、常に確かな品質の商品をお客様に提供し、安心して最高の店舗体験をしていただくことに努めています。

情報開示

マクドナルドでは商品を更においしく、安心して召し上がっていただくため、「見える、マクドナルド品質」として品質に関する情報をホームページで公開しています。

商品のアレルギー・栄養・原産国情報については、常に最新の情報を提供しており、メニュー情報や商品パッケージ(容器包装)にあるQRコード*からも確認いただけます。

また、ホームページでは「食材の生産・加工ムービー」などにより、マクドナルドの食材やおいしさのこだわりについて公開しています。



*QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です

ビッグマック

おいしさも食べたえもビッグなマクドナルドの人気メニュー。こだわりの100%ビーフと、特製ビッグマックスースが決め手。

アレルギー情報

すべての原材料を精査した結果によるもので、原材料の仕様変更や製造・調理工程における交差混入など、常に最新の情報を提供しています。アレルギー物質の項目は、食品表示法にて表示が義務付けられている7品目と、表示が推奨されている20品目についてお知らせしています。「アレルギー情報一覧(PCサイト版)」、アレルギー物質を原材料(食材)として使用しているかどうかをお調べいただける「アレルギー検索」も提供しています。

栄養情報

標準的な製品仕様と調理から「食品表示基準」(食品表示法)に基づく栄養分析の数値を基本とし、一部の食材は「日本食品標準成分表2015年版(七訂)」(文部科学省)を引用し作成しています。「栄養情報一覧(PCサイト版)」、性別・年齢・身体活動レベルに基づく1日に必要なエネルギー・栄養成分の充足率を単品でもセットでも簡単に調べることができる「栄養バランスチェック」も提供しています。

原産国情報

商品を構成する主要原材料の原産国、最終加工国を公開しています。

ビッグマック

おいしさも食べたえもビッグなマクドナルドの人気メニュー。こだわりの100%ビーフと、特製ビッグマックスースが決め手。

栄養分析

標準的な製品仕様と調理から「食品表示基準」(食品表示法)に基づく栄養分析の数値を基本とし、一部の食材は「日本食品標準成分表2015年版(七訂)」(文部科学省)を引用し作成しています。「栄養情報一覧(PCサイト版)」、性別・年齢・身体活動レベルに基づく1日に必要なエネルギー・栄養成分の充足率を単品でもセットでも簡単に調べることができる「栄養バランスチェック」も提供しています。

アレルギー情報

すべての原材料を精査した結果によるもので、原材料の仕様変更や製造・調理工程における交差混入など、常に最新の情報を提供しています。アレルギー物質の項目は、食品表示法にて表示が義務付けられている7品目と、表示が推奨されている20品目についてお知らせしています。「アレルギー情報一覧(PCサイト版)」、アレルギー物質を原材料(食材)として使用しているかどうかをお調べいただける「アレルギー検索」も提供しています。

原産国情報

商品を構成する主要原材料の原産国、最終加工国を公開しています。

マック謎解き探検隊～おいしさのヒミツ～



マクドナルドの食材やおいしさのこだわりについて、お子様から大人まで、どなたでも楽しんでいただけるように制作されたオリジナルムービーをシリーズで公開しています。



栄養バランスチェック(12月リニューアル)

バランスのよい食生活で健康的な毎日をサポートする食育コンテンツです。あなたに必要な1日のエネルギー及び栄養成分のうちマクドナルドメニューでどれだけ補えるかをチェック、管理栄養士による年代別アドバイスや栄養素の説明も確認できます。メニューをお選びいただく際や食事の栄養バランスを考えるうえでお役立てください。



男性/18-29歳/身体活動レベル(ふつう)の場合

People

ピープルビジネス

企業の成長を支えるものは「人」そのもの。

その考え方は創業時から一貫して変わりません。

As long as you're green, you're growing. As soon as you're ripe, you start to rot.

「若葉であるかぎり、あなたは成長のさなかにある。熟したとたんに、後退がはじまつていく」

マクドナルドで働く人が、いつまでもみずみずしさを失わず、

成長し続けることができるよう——

その思いは形を変えて、現在に至るまで

マクドナルドビジネスのいたるところに息づいています。

<http://www.mcdonalds.co.jp/recruit/fresh/mcdonalds/index.php5>



People Vision

マクドナルドは、世界中どの町でも、ベストな雇用主となる

「People Vision(ピープルビジョン)」は、マクドナルドが企業として、マクドナルドで働くすべての人々に対して持っているグローバル共通のビジョンです。

People Promise

マクドナルドは従業員の皆さんとその成長及び貢献を、
価値あるものとして大切にします

「People Vision」を達成するために、マクドナルドが全従業員に向けて約束していること。

それが「People Promise(ピープルプロミス)」です。

成長の機会を提供し、能力を高め、リーダーを育て、功績に報いることで、

マクドナルドで働くすべての人を尊重しています。

Employee Value Proposition: EVP

従業員の価値観に合わせ、より多くの働く価値を従業員に提供します

Employee Value Proposition(EVP)とは、従業員が仕事やコミットメントを通してマクドナルドから受け取るもの及び価値のことです。

マクドナルドは従業員が最も価値を置いていることをサポートするポリシーと、より多くの価値を提供するプログラムを実行することに集中して取り組んでいます。



教育機関 ハンバーガー大学



マクドナルドは全世界共通のグローバルシステムを持っています。ハンバーガー大学はその1つで、最新の教育理論及び手法を用いて、人材育成とそのシステム開発に取り組む専門教育機関です。クルーから経営陣に至るまで、あらゆる職位の従業員に対して必要に応じた教育プログラムや研修、ツールを提供しています。

http://www.mcdonalds.co.jp/recruit/fresh/our_voice/voice38.php5

店舗では、学生はもちろん、主婦、シニア、外国人、障がい者など、様々な人材を積極的に雇用し、多様性を尊重するカルチャーと誰もが働きやすい職場環境を整備しています。オリエンテーションやトレーニングの内容は1冊にまとめられ、誰にでも分かりやすいようシンプルで、映像や画像が多用されています。また、ワークブック・映像教材・ディスカッションや実践学習など、様々な手法を組み合わせた学習スタイルにより、店舗での学びと成長を最大限引き出し、価値あるアルバイト経験の実現を目指します。

店舗での雇用・人材育成



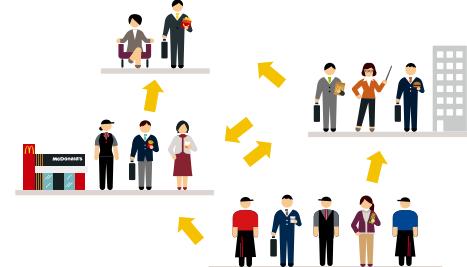
パフォーマンス・ディベロップメント・システム(PDS)は一人ひとりの業績の達成と成長をサポートする人事評価制度です。PDSは一貫性があり、分かりやすく、公正で、効果的に、業績評価・育成目標に関するフィードバックを提供でき、また、ビジネスプランの実現に必要な具体的なアクション、考え方、姿勢、行動を示します。

http://www.mcdonalds.co.jp/recruit/fresh/our_voice/voice06.php5



人事評価制度

キャリアアップ



マクドナルドでは決められたキャリアパスは存在しません。人材をどう育成し配置するかを戦略的に考えた人事異動や、会社がポジションを公募する「スタッフ公募制度」など、成長やキャリア開発の機会を提供し、一人ひとりの職場でのチャレンジやキャリアアップを全力でサポートします。クルーからの社員採用も積極的に行ってています。

http://www.mcdonalds.co.jp/recruit/fresh/our_voice/voice28.php5

性別・年齢・国籍・キャリアバックグラウンド、障害の有無に関わらず、あらゆる多様性を尊重し、多様な働き方の実現やキャリア開発の機会を提供するなど、一人ひとりがやりがいを持って活き活きと活躍し続けられる組織をつくることが企業力の向上に繋がると考えています。

http://www.mcdonalds.co.jp/recruit/fresh/our_voice/voice15.php5

ダイバーシティ & インクルージョン



雇用環境 ワークライフバランス



フレックスタイムや在宅勤務制度の導入、年次有給休暇取得の促進、女性の活躍推進や仕事と家庭(介護や育児含む)の両立支援、また、オンラインシステム導入による人材育成及びタレントマネジメントの強化や業務効率向上など、一人ひとりに合ったワークライフバランスの実現に向け、さまざまな働き方をサポートする制度の充実に取り組んでいます。

https://www.mcdonalds.co.jp/recruit/fresh/our_voice/voice01.php5



AJCCは、クルーがお客様の期待を超える店舗体験を提供するため、日々のトレーニングで習得した技能を競い合い、クルー全国No.1を決定するTop of the top レコグニションプログラムです。1977年より継続して実施しており、本年で41回目を迎えます。クルー全員をレベルアップさせるトレーニングプログラムの側面も持ち合わせ、参加するクルー全員が継続的にスキルアップすることで、「ピープルプロミス」の実践と「クルーの成長=マクドナルドの成長」の実現をサポートします。

http://www.mcdonalds.co.jp/recruit/fresh/our_voice/voice05.php5

ピープルビジネス

People

Community

チャリティ活動

病気と闘う子供たちとその家族のための「ドナルド・マクドナルド・ハウス」への支援を中心に、日本のチャリティ文化の更なる醸成を目指して活動しています。

スポーツ支援

子供たちの心とからだの健全な成長を願って、子供の夢や希望、情熱を応援するさまざまなスポーツ支援活動を行っています。

教育支援（食育支援）

食を通じて、子供たちが楽しく食べる喜びを知り、食に関する正しい知識と習慣を身に付けてもらうため、食育支援活動を行っています。

地域貢献

「あなたの街と共にあるマクドナルド」として、街の美化活動や防犯など、安全で安心な活気ある街づくりを目指し、地域に貢献する活動を積極的に行ってています。



社会貢献活動

子供たちの未来がより幸せなものでありますように。たくさんの笑顔を願って、社会貢献活動を展開しています。

「私たちをいつも支えてくださっている地域の皆さまへお返しをする義務がある」という考え方のもと、チャリティ活動、スポーツ支援、食育支援、地域貢献、を中心にさまざまな取り組みを続けています。

<http://www.mcdonalds.co.jp/company/community/>

チャリティ活動

マクドナルドのチャリティ活動の中心となるのが「ドナルド・マクドナルド・ハウス」の支援活動です。全国のマクドナルドの店頭にある募金箱、“マックハッピーデー”チャリティキャンペーン、といった募金活動を通じて「ドナルド・マクドナルド・ハウス」を支援しています。全国に12カ所あるハウスの建設や運営は、すべて皆さんからの寄附や地域ボランティアの支援で成り立っています。



自宅から離れた場所で病気と闘う子供と家族のために、病院の近くに建てられた滞在施設です。全国12カ所、1日1人1,000円で利用できます。

① スポーツ支援

学童野球と少年サッカーを中心とする支援活動では、大会のサポート以外にも、全国大会出場チームを地元店舗に招く団結式やオリジナルの野球・サッカー手帳のプレゼントなどを行っています。

学童野球

「小学生の甲子園」とも呼ばれ、学童球児にとって最大規模の大会「高円宮賜杯 全日本学童軟式野球大会 マクドナルド・トーナメント」大会をサポートしています。



少年サッカー

日本サッカー協会第4種チーム(U-12)を対象とした小学生年代最大の大会である「全日本少年サッカー大会」を2011年よりサポートしています。

全日本少年サッカー大会



② 地域貢献

安全な街づくり、地域美化活動、子育て支援、など地域に密着したさまざまな活動を行っています。



子ども110番の家

地域の警察本部等と協力して、子供たちにとって安全な街づくりを目指しています。

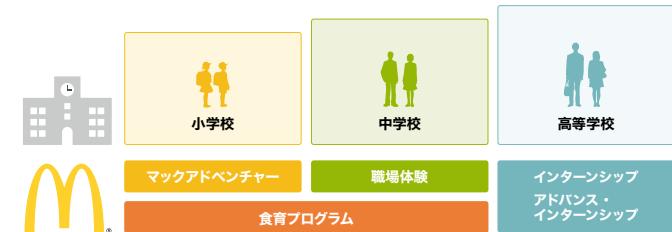
ハロードナルド

子供たちの日常の生活に必要なルールやマナーを伝えるプログラムです。全国の幼稚園・保育園・小学校などの教育機関で実施しています。

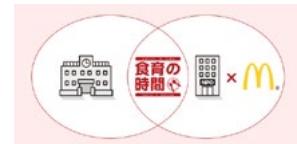


③ 教育支援（食育支援）

小学校、中学校、高等学校と、子供たちの成長段階に応じて、食育から店舗実習まで、さまざまな教育支援プログラムを行っています。



主な活動として、食を提供する企業の責務として、子供たちが楽しく食べるよろこびを知り、食に関する正しい知識と習慣を身につけてもらうため、食育支援活動を行っています。小・中学校のための教材「食育の時間」を開発し、以来教育現場で実施される食育授業の支援を続けています。



防犯笛



小学校に入学し、新しい世界へと行動範囲を広げていく子供たちの安全をサポートするために防犯笛を地域の教育委員会や警察等と協力して、毎年全国の新小学1年生に提供しています。



子育て支援



国と地方自治体が推進する「子育て支援バスポート事業」に協力しています。



Planet

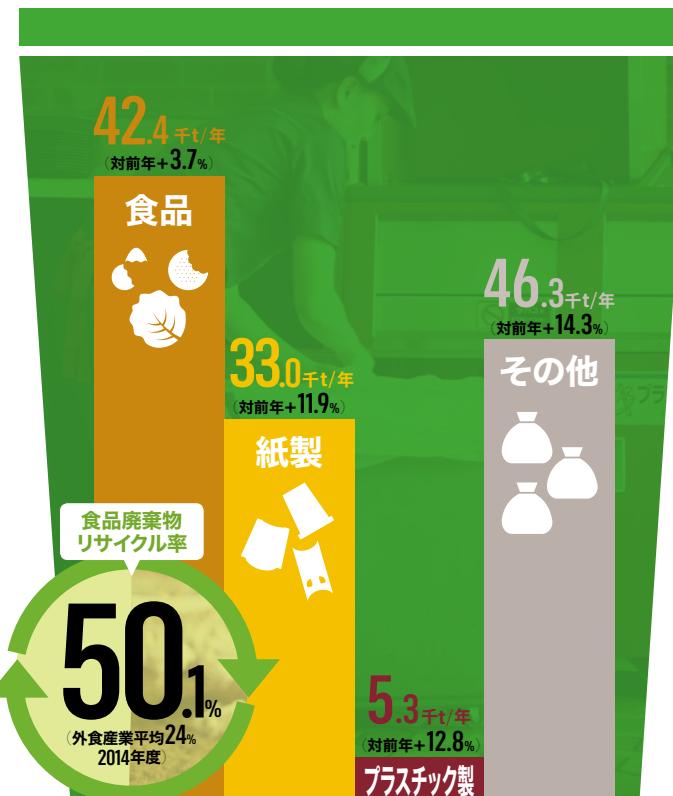
廃棄物対策・環境保全

廃棄物対策の基本は発生抑制と考え、廃棄物となる原材料等については環境負荷の少ない、環境保全にかなったものを使用しています。店舗での商品調理ではオーダーメイド方式のメイド・フォー・ユーシステムを、原材料管理では数値目標のあるイールド管理(歩留り管理)を導入し、無駄な廃棄物の発生を抑制しています。リサイクルでは廃食油のほぼ100%のリサイクルを実現しつつ、さまざまな手法によるリサイクルの検討を進めています。

2017年廃棄物量の状況

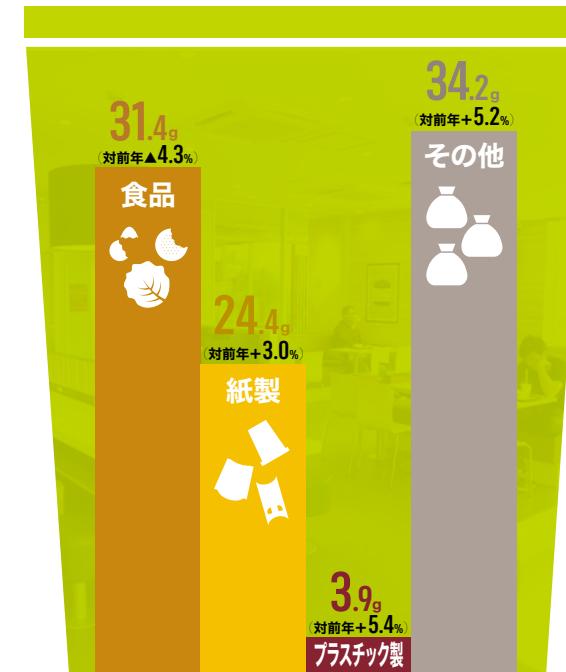
全店の廃棄物量

127.0 千t/年
(対前年+9.9%)



客数1人あたりの廃棄物量

93.9 g/人
(対前年+1.3%)



お客様1人

環境保全

現在使用している紙製容器包装に関しては2020年までに100%FSC森林認証を取得したものへの移行を目指しています。2017年末現在71.1%となっています。

<http://www.mcdonalds.co.jp/company/community/eco/>



生態系への配慮

フィレオフィッシュの原材料であるスケソウダラは天然の漁業資源であることから、資源枯渇が起こらないよう持続可能性に配慮した漁業で獲れた魚だけを原材料に使用しています。



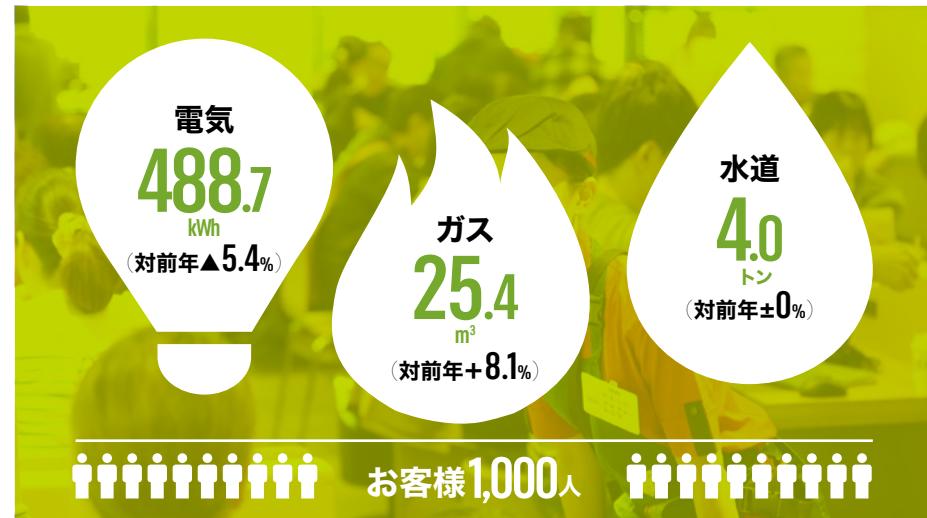
「地球のことを考えて行動する」がマクドナルドの環境理念です。具体的には事業活動に伴い無駄な環境負荷を出さないことにあります。そのために店舗ではプログラムされたエネルギー管理を行うと共に、投資計画に基づき省エネ機器や高効率設備機器の導入を行っています。この2つはお互いにリンクしPDCAサイクルで継続的な実行を図っています。

2017年エネルギー使用状況

全店合計の種別エネルギー使用状況



客数千人あたりの種別エネルギー使用状況



全体のエネルギー使用量



原単位



温室効果ガス排出量



店舗環境

お客様に快適でくつろげる空間を提供することを目的に、空調管理を室内の状況から判断して行っています。また、マクドナルドでは2014年8月から全店禁煙にし、お客様連れを含む全てのお客様によりきれいな空気と健康に配慮した店舗環境でお食事を楽しんでいただけるよう努めています。

<http://www.mcd-holdings.co.jp/news/2014/release-140815a.html>



日本マクドナルド株式会社 CSR Reportへの 第三者意見

日本は少子高齢化・地域過疎化が顕在化する中、世界的には人口増で食料・資源の限界や気候変動への危機感が高まり、持続可能な社会への転換が急務です。グローバルなレストラン企業として2018年1月に「Scale for Good (スケールフォーグッド)」を掲げ、トップメッセージで日本法人も地球の将来に貢献する姿勢を明らかにしています。今後、高い意欲での取り組みを期待します。

CSR Reportを拝見。「品質・サービス・清潔さ・価値」を理念に、「原材料調達、食品・品質管理、従業員、社会貢献、環境」5分野で社会的責任を果たすと明言しています。そして消費者に近い外食として、食の安全・安心にこだわり、品質管理体制を整え、情報を誰もが「見える」よう開示し、レポートも分かりやすく作成しており、信頼を覚えます。

環境では、特に作り置き方式から注文後生産への転換で食品ロスを大幅に削減し「2017年度食品産業もったいない大賞」で表彰されたのは、知恵と工夫で環境と経済の両立が可能なことを示しています。国連「持続可能な開発のための2030年目標 (SDGs)」でも食品ロス・食品廃棄物半減が謳われており、ぜひ社会をけん引していただきたい。また、くらしや地域に根差す社会貢献での、子供たちの食育・防犯・スポーツ・鬱病支援など次世代を支える取り組みは、継続していただきたいと考えます。

最後に、CO₂排出量は対前年比微減ですが、廃棄物やエネルギーなど微増分野もあります。

「Scale for Good (スケールフォーグッド)」含め、持続可能な未来への一層の挑戦に心から期待します。



崎田裕子

ジャーナリスト・環境カウンセラー

NPO法人 持続可能な社会をつくる元気ネット理事長

NPO法人 新宿環境活動ネット代表理事

NPO法人 持続可能な社会をつくる元気ネット

<http://www.genki-net.jp>

NPO法人 新宿環境活動ネット

<http://www.sean.jp>